

柏市版



令和7年度 かけ橋期カリキュラム



この冊子のデータは
園の先生方は教育研究所 HP
から、小学校の先生方はデジ
タル校務ライブラリから
ダウンロードできます！



大切にしたいこと① 「学びの連続」を意識

これからの中保育接続は、「小学校への順応」ではなく「学びの連続」を意識することです。実際の参観の様子から子どもの育っている姿を捉え、発達について考えたり、保育者・教師の関わり方について語り合ったりすることが大切になります。

幼児教育と小学校教育がつながるって どういうこと？



	これまで	これから
目的	小学校への順応	学びの連続
内容	交流活動	カリキュラム編成
期間	数か月	2年
実施単位	施設単位	地域単位 <small>※地区別連絡会等の話し合い</small>

大切にしたいこと② 「共通シート」を活用

「学びの連続」を意識するため、柏市版架け橋期カリキュラム共通シート（枠）を作成しました。幼保こ小連携において、園と小学校がそれぞれのカリキュラム（現時点までに行ってきた活動やこれから予想される活動）を可視化して語り合うことが大切です。

架け橋期カリキュラムのねらいについては、柏市幼児教育実践研究テーマより設定しています。柏市では、幼稚園・保育園・こども園の全園で、共同研究を行っており、園が大切にしている「伝え合いを楽しむ子」を小学校でも引き続き大切にして育てていきたいと考えます。

共通シート（活用例）を参考に
共通シート（枠）を使います



大切にしたいこと③ 保育者・教師の「対話」

年3回（2回）の幼保こ小の授業参観・保育参観では、「伝え合いを楽しむ子を育てる」という共通の視点をもって、参観者同士で積極的に交流を図りましょう。

参観後の協議会では、以下の流れでグループワークを取り入れてみましょう。

- ① 参観した子どもの姿から「伝え合いを楽しんでいるな」と思ったエピソードを思い浮かべる。
- ② そのような子どもの姿は、どのような環境や援助によってみられたのかグループで考える。
- ③ グループで考えたことを全体共有する。
- ④ 共有したことを踏まえて、今後のカリキュラムを見通しつつ、どのようなことを大切にしたいかを各校各園で考える。

保育者と教師が対話を通してつながり、「その活動おもしろそう!」「子どもってすごい!」という思いを育みながら、各園と各小学校の架け橋期カリキュラムが充実することを期待します。

« 目 次 »

付録 大切にしたいこと	—— 付録1
I 架け橋期カリキュラムとは	—— 1
II 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	—— 2
III アプローチカリキュラム	—— 4
1 小学校の学びの基礎となる幼児期の姿 5
(1) 系統	
(2) 幼児期の経験	
2 エピソードから見る幼児期の姿 10
IV スタートカリキュラム	—— 18
スタートカリキュラム 編成のポイント 19
(1) 人間関係づくり 20
(2) 時間割の工夫	
①生活科と合科的・関連的に扱える各教科の活動例 21
②柏市版スタートカリキュラム単元 22
③学習予定・環境構成・資料等 23
④単元の主な活動展開 30
(3)「勉強したい！」子どもの思い 38
V 幼保こ小連携	—— 41
1 柏市の幼保こ小連携 42
2 幼保こ小 連携活動例 43
3 幼保こ小 交流会計画例 44





I 架け橋期カリキュラムとは



幼稚園と小学校の段差を滑らかにする

令和4年3月に文部科学省より「幼保小架け橋プログラムの実施に向けての手引き」が策定されました。そこに明記されているように、5歳児から小学校1年生の2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくる重要な「架け橋期」になります。

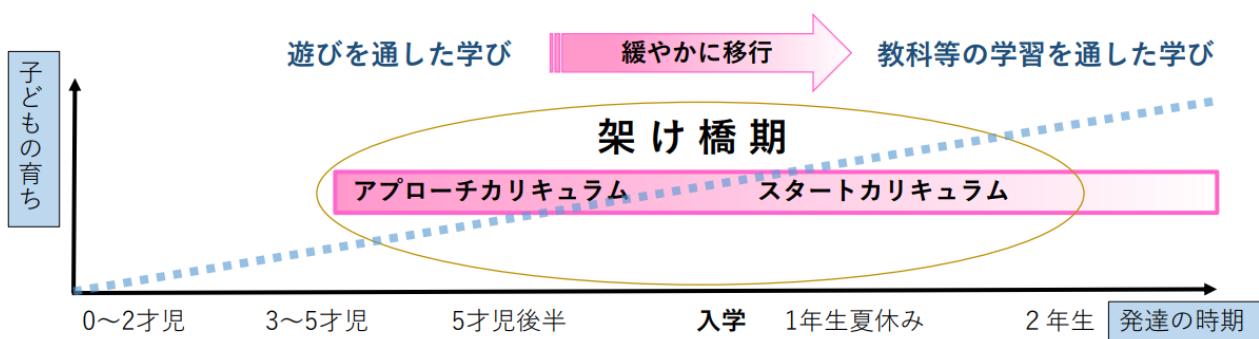
この「架け橋期」の教育については、幼稚園・保育園・こども園と小学校（幼保小）の多様な施設がそれぞれの役割を担っています。また、幼児期の3要領・指針や小学校学習指導要領には幼保小連携・接続強化について明記され、子どもの成長と学びの連続性、一貫性を考慮した教育の必要性が示されています。

しかし、小学校入学時、「教室にはさまざまな種類のおもちゃや絵本などが常備されている園」から「机といすが整然と並んでいる学校」、「子ども一人一人が自由に活動できる時間の多い園」から「時間割に従って行動する学校」など、自分主体の活動から規律のある集団での活動へ、その変化に子どもたちは戸惑います。

だからといってこのような入学時の段差を全て取り除くのではなく、子ども自身の力で乗り越えられるように、「架け橋期」を通じて小学校の生活を徐々に考えさせていくことが重要です。また、幼児教育を通して育成してきた資質・能力に基づく幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（P2～3）を発揮できるようにして、それをさらに伸ばしつつ、教科等の学習へつなげていく「架け橋期カリキュラム」が求められます。

アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム

「架け橋期カリキュラム」は、園による「アプローチカリキュラム」と小学校による「スタートカリキュラム」から構成されます。「アプローチカリキュラム」は幼児期の学びが小学校の生活や学習で生かされてつながるように工夫された5歳児のカリキュラムです。「スタートカリキュラム」は、小学校へ入学した1年生が小学校の生活や教科の学習に円滑に移行していくことを目指して編成されたカリキュラムです。





Ⅱ 幼児期の終わりまでに 育ってほしい姿

現在、幼児期の3要領・指針や小学校の学習指導要領には「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」が明記されています。

次に示す一覧は、この10の姿について子どもに学びや生活の基盤が育まれていく過程で見られる具体的な姿を示したものです。同時に、それらを育む先生が「こういう姿を目指してほしい」と教育上の思いや願いをこの10の姿に照らし合わせながら、一人一人の子どもの様子を見定めていくものもあります。

そのようなことを通して、子どもの学びや生活の質を捉えてどのように育ってきているかを見出したり、子供の実態に沿った学びや生活の実現を図ったりすることができるのです。

そして、ここで示された姿は、架け橋期はもとより、その前の時期、さらにその後の学びのプロセスの基盤にもなっていきます。この10の姿を手掛かりに、施設類型・設置者・学校種を越えて幼保こ小の先生方が滑らかな接続を意識した対話を大切にし、未来を担う子どもの学びや生活の基盤づくりを協働して取り組んでいきましょう。



幼児期の終わりまでに育ってほしい子どもの姿

生活習慣・運動	健康な心と体	<p><基本的な生活習慣></p> <ul style="list-style-type: none"> 衣服の着脱、食事、排泄、整頓など、基本的な生活習慣を身につけることの大切さがわかり、意欲や自信をもって、自分で行うようになる。
		<p><健康な心と体></p> <ul style="list-style-type: none"> 体を動かす気持ちよさを味わうようになる。 自ら運動しようとする意欲をもち、体の諸部位を十分に動かして、進んで運動するようになる。 食べ物への興味や関心をもち、みんなと食べる喜びや楽しさを感じながら、進んで食べるようになる。
人との関わり	自立心	<ul style="list-style-type: none"> 自分で考えたり、できないことは助けを借りたりしながら、最後までやり遂げ、満足感や達成感をもつようになる。 家族、友達、先生、地域の人々との関わりを通して、自分のよさや特徴に気付き、自信をもって行動するようになる。
	協同性	<ul style="list-style-type: none"> 友達と積極的に関わる中で友達の思いや考えを感じながら行動する。 友達との関わりを通して互いのよさが分かり、工夫したり協力したりしながら、友達と一緒にやり遂げる満足感を味わう。
	道徳性・規範意識の芽生え	<p><道徳性の芽生え></p> <ul style="list-style-type: none"> 友達や周囲の人の気持ちを理解し、思いやりをもって接する。 他者の気持ちに共感したり、自分の行動を振り返ったりする経験を通して、自分の気持ちを調整しながら行動するようになる。
		<p><規範意識の芽生え></p> <ul style="list-style-type: none"> 友達との様々な葛藤などの体験を重ねることを通じ、してよいことと悪いことが分かり、自分で考えて行動するようになる。 よりよく生活するためにきまりがあることを知り、作り替えたり新たに作ったりしながら、きまりを守って生活するようになる。
	社会生活との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 家族から愛されていると感じ、家族を大切にしようとすると気持ちをもつようになる。 地域の人々に親しみをもって接する。
学びの芽生え	思考力の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> 色々な環境に積極的に関わる中で、より深い興味関心をもち、不思議に思ったことなどを自分なりに考えて試したり、工夫してみたりする。 友達の考えを感じとったり、聞いたりして新しい思いや考えを生み出す喜びを味わうようになる。
	自然との関わり 生命尊重	<ul style="list-style-type: none"> 動植物との触れ合いを通じて、生きているものへの愛着を感じ、生命の営みの不思議さや大切さに気付くようになる。
	数量や図形、 標識や文字など への関心・感覚	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活の中で、数量や図形、長短などに親しむ経験を重ね、使うようになる。 文字や様々な図などが、人と人をつなぐコミュニケーションの役割を持つことに気付く、生活や遊びの中で使うようになる。
	言葉による伝え合い	<ul style="list-style-type: none"> 人の話を聞いたり、自分の思いや考えを伝えたりすることで、言葉を通して先生や友達と心を通わせるようになる。 日常生活の中での様々な環境を通して新しい言葉に出会うことで、豊かな語彙を獲得し、言葉への関心が高まるようになる。
	豊かな感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びを通して、感じたことや考えたことを自分なりに書いたり、作ったり、遊んだりして楽しむことができるようになる。 友達同士で表現し合うことで、面白さに気付いたり表現する過程を楽しんだりするようになる。

スタートカリキュラムにつなげる

